

# VIEW

## 本当に「標準化」だけでいいんですか！！

### 車両検修のあるべき姿とは？！

8月1日の総点呼の所長訓示で「1ヶ月皆さんの作業内容を見させてもらったが一部作業がきちんできていないところが見られる。標準化は車両検修のレベルを一定程度以上に保つためにやっていて、それは守ってもらいます」という趣旨のことが言われ、その後毎日のように交検助役等により「作業点検」が行われています。

しかし、例えば予備検査時に軸ダンパーやセミアクの油漏れなどを発見して、あらかじめGリーダーに伝え「モノの手配」や「特修への作業依頼」を行うなど作業を円滑に回していることもあるのです。限られた時間の中で作業者は感覚を研ぎ澄ませて電車を見ているのです。それを「標準化での順番以外の箇所には目もくれるな」というやり方でいいのでしょうか？！ 少し前に全検を出て2交目の編成で、ある理由でライニングの交換が多く発生しました。そこを通りかかった検修総括助役は、交換したライニングの3方向にチョークチェックが入っているかをのぞき込んで見ていましたが、「2交目の編成のライニングをなぜ交換したのか」ということに対しては一切関心を示しませんでした。

会社は、標準化の順番通りに作業さえすれば安全な車両が出せると思っているのでしょうか。検修作業は、自動車組立工場のようなライン作業ではありません。

社員の皆さん！ どう思われますか？！